

K120.73

6

2

大和田常
和常
建小
樹學
著
帝國
歌唱
卷下



緒言

此書は尋常小學の生徒に誦はしむるを以て程度とす。或は程度の高きに過ぐると云ふ人もあれど。うれば歌と平語との別を考へざる論といふべし。歌は悉く著者の新作を用ひ。曲譜は専ら辻則承君に助力を乞ひて選定せしを用ふ。本譜の外に數字もて記したるは數字譜練習の用に充てんが爲めなり。或は男子にのみ適して女子に適せぬもあるべく。或は女子にのみ適して男子には全く適せぬもあるべし。其他時節により地形による類もあるべければ。なるたけ曲數と種類とを多からしめんことを勉めたり。

明治廿五年二月

著者しるす

尋常
小學

帝國唱歌下卷目次

八咫鳥……………三	高津の宮……………二十一
日本武尊……………六	運動會……………二十四
富士の高嶺……………九	今日から休……………二十七
元旦の歌……………十一	源平……………二十九
時計……………十三	夕霜……………三十一
皇祖の祭……………十五	湊川……………三十三
宮の山……………十七	にひなめ……………三十五
謠へよ波……………十九	

八咫鳥

てテけえ
ミキわキ
にギどニ
とノリツ
るしもヨ
らミぢモ
そウヨク
のノセノ
しノねノ
くマハレ
つくいヨ

たニめニ
ハブー
ハトのヤ
にマミ
たミ
のノだノ
ソツもツ
こコたコ
こソもツ
マコ
イマ
イマ

ナヌセヨ
らちちケ
カソミウ
カニボダ
たヒホタ
まズハ
ヤガナレ
のノら
ヘモガ
くトたウ
ゆミヤカ

ずかにバ
らラヂス
なナミヤ
のニマダ
もナヤタ
くクフ
ぞゾツ
のノキノ
まレビシ
カチン
イウタシ

5, 3, 4, 5, | 6-5, 0, | 4, 6, 5, 4, | 3-0- |
 3, 3, #4, 4, | 5-6- | 7, i7, 6, 3#1, | 5-0- |
 2, 2, 3, 3, | 5-4, 0, | 6, 5, 4, 3, | 4-0- |
 5, i, 3, 2, | i- . 76, | 5, i, i, 7, | i-0- |

八咫鳥

下二

八咫鳥

筑紫の空あどよ見て
今こそこの難波津よ
行方の山高からず
膽駒の賊物からず

熊野の海凌ぎ来て
今こそこの大和路よ
御供の數日よそひぬ
猾の賊何ならず



八咫鳥

下三

日本武尊

日本武尊

(一) とめ のす がた よ を 臣 ひ て
 (二) マソ ノノ ヅク ハに を カラ レテ
 (三) たけ るハ ノこ こに ナ マヨ ナリ ヤ
 (四) こト ノこ こに ナ マヨ ナリ ヤ

い え ん の せ ぎ に ま り ぎ れ い ち
 コ コ ん の ヲ ヲ ル ミ シ ナ カ ツ キ ち
 わ れ マ ト ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ

こ こ ろ ハ ゴ ゴ ゴ ゴ ゴ ゴ ゴ ゴ ゴ
 い マ コ リ シ リ ク マ セン ヲ オ イ タ

ら き ハ ゴ ゴ ゴ ゴ ゴ ゴ ゴ ゴ ゴ
 ま キ ト シ ノ オ キ ト ク ノ オ ク

1. 1, 1, 1, | 2, 2, 2 - 2, | 3, 1, 1, 2, | 1, 7 - 0, |
 3, 3, 3, 3, | 3, 3, 5 - 6, | 4, 2, 1, 7, | 2, 1 - 0, ||
 5, 5, 5, 5, | 5, 5, 2 - 5, | 7, 7, 6, 2, | 5 - 0 5, |
 ♯ - 5, 5, | 6, 6, 3 - 5, | 5, 1, 3, 2, | 1 - 0

下五

八咫鳥

下四

(三)

岩根を攀ち森を分け
 迷ふもつて民のつめ
 八咫鳥の我道を
 導きつて大和路

(四)

吉野の雲よそよ消え
 今こそこの鳥見山よ
 皇祖の靈よを享けよ
 臣子の情よを休め

日本武尊

①

少女の姿よそほひて
酒宴の席に紛れ入る。
心は賊を討じを直で

②

熊襲の賊に計られて
心をゆるし近づきぬ
今こそ知らぬ大君よ
背きし已む天罰を

③

泉帥いしくま申すやけ
我より強き人なりと
誇りしものを今ぞしる
倭は君のおはしけり

④

尊の御名を今よりい
日本武と捧ぐべし
これより熊襲平らぎて
皇子の徳は千代までも

富士の高嶺

富士の高嶺

(一) ちふめがやそらにのあさひのとそらも
 子めががよよのきえハニとこセマ
 フカゲシノヒトホノクタルマ

(二) アムカシノマシメルノのゆきと
 カシラニのニメタラチノソキ
 テニカシラハキラヌマカネ

(三) みぢのすゑにみえしもとれ
 てからてもうはらぬなづ

よやまぢのすゑにみえしもとれ
 めふもどにくもたらぬにゆき

5. 5. | 1, 1, 3. 2. | 1-7. 1. | 2. 2. 4. 3. | 2- |
 5. 5. | 5. 3. 1. 6. | 6. 4. 4. | 3. 2. 3. 2. | 1- ||

下八

富士の高嶺

(一)

仰げや空よ朝日の空よ
 皇が御代の榮と共よ
 神代のまよの高嶺の雪を
 世界よほこる寶の山を

(二)

仰げや雪を常磐よ見せて
 昔の人の譽めしるまよよ
 景色よ富める倭の空を
 變らぬ富士の高嶺の雪を

(三)

海路の末よ見山路の末よ見
 何處うら見ても變はらぬなづめ
 麓よ雲ハ高嶺よ雪ハ

富士の高嶺

下九

1 1, 2, | 3 - 2 - | 3, 3, 4, 4, | 5 - . 0, | 3 - 6, 5, | 3 - 5 - |
 2, 1, 2, 3, | 2 - . 0, | 3, 3, 5, 5, | 6 - 5, 5, | 6, 6, 7, 7, | 1 - . 0, |
 1 - 7, 6, | 5, 5, 4, 4, | 3, 2, 3, 4, | 5 - . 0, | 1 - 1, 2, | 3 - 4 - |
 6, 6, 5, 4, | 3 - . 0, | 2 - 2, 3, | 4 - 5, 5, | 1 - 6, 5, | 3 - 2 - | 1 - . 0, ||

(三)

(二)

鶏トリの聲こゑのどりよて
 明けをむる年の空
 雲井クモイの庭にわの御拜ミヤガハまで
 思おもひやうこそうーけれ
 大君オホキミの御祈ミヤガハ
 國くにの上のうへは民たみの上のうへ
 門かどの松まつみどりよて
 笑わらみ渡る初日はつひ影かげ
 千代田ちよだの宮みやの御空ミヤガハまで
 霞あすむ春はるこそ樂たのしけれ
 我わが御代ミヤカの榮さかこそ
 松まつのごとく春はるのごとく

元旦の歌

元旦の歌



(一) けりのとゑのどかにて
 (二) カドノマツミドリニテ



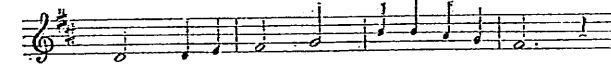
あけそむろとしのそら
 エミソタルハツロカゲ



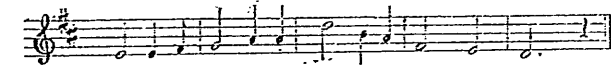
くせかのにえのどはいまで
 ナヨダノミヤノミソラマテ



くもひやろこそかしこけれ
 カスムハルコゾタノレケレ



かなきみのみいのりハ
 ワガミヨノサカエコソ



くはのけへおたみのうへに
 マツノゴトクハルノゴトク

時計

(一) やすむまかきかべの
 (二) タユルママナキハベリ
 (三) とまろまなきとシ

とけい ちじ
 ウゴ ヨキ ミ け ね も せ や し ち じ
 あ ゆ み き ま ね ん な ね ね ね ね

も ち ち ち ち ち ち
 オ ナ ヤ エ コ ジ ロ と ち ち
 あ け て や ト コ ヲ ト と き ち ち
 い ま ど い そ げ き な べ
 イ マ ズ ヤ ス メ ト モ ニ
 い ま ぞ い そ げ え け め

5. 4. 3. | 2-4. | 3- . | 6. 6. 6. | 5-3. | 2-0. |
 2 3. 3. 4. | 5-6. | 7- . | 7. 6. 7. | 2-i. | 7- . |
 1. 5. 6. | 5-4. | 3- . | 1. 6. 4. | 3-2. | 1-0. ||

時計

下十二

時計

(一) やすむまかきかべの
 (二) タユルママナキハベリ
 (三) とまろまなきとシ

とけい ちじ
 ウゴ ヨキ ミ け ね も せ や し ち じ
 あ ゆ み き ま ね ん な ね ね ね ね

も ち ち ち ち ち ち
 オ ナ ヤ エ コ ジ ロ と ち ち
 あ け て や ト コ ヲ ト と き ち ち
 い ま ど い そ げ き な べ
 イ マ ズ ヤ ス メ ト モ ニ
 い ま ぞ い そ げ え け め

5. 4. 3. | 2-4. | 3- . | 6. 6. 6. | 5-3. | 2-0. |
 2 3. 3. 4. | 5-6. | 7- . | 7. 6. 7. | 2-i. | 7- . |
 1. 5. 6. | 5-4. | 3- . | 1. 6. 4. | 3-2. | 1-0. ||

やすむ間なき壁の時計
 もはや七時をはや八時
 時へ今ぞいそげ學べ

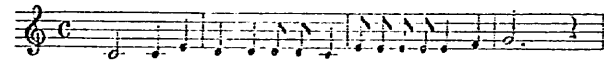
絶ゆる間なき針の動
 今日も晝へ同トどころ
 時へ今ぞやすめ共よ

どまる間なき年の歩
 去年七つ明けて八つよ
 時へ今ぞいそげ勵め

時計

下十三

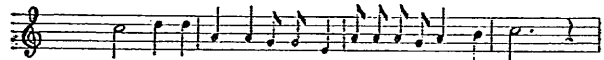
皇祖祭



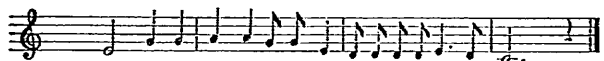
(一) あふげ衣ほきみのみたまのまつり
 (二) ニセンゴウキネンミオヤノマモリ



つらへた詔らんくもあのをらと
 ツキマヒノモトノタグとハイカニ



とりもとゑたててはやし1のべに
 ハナハトリゴトニチルトモサカン



いまだえろかぜのめぐみとうたふ
 クニノハルカゼハチンチトモニ

1-1,3, | 2,2,2,2,1, | 3,3,3,3,3,4, | 5-0, |
 6-6,5, | 1,1,6, 6, | 5,5,5,5,3,1, | 2-0, |
 1-2,2, | 6,6,5,5,3, | 6,6,6,5,6,7, | 1-0, |
 3-5,5, | 6,6,5,5,3, | 2,2,2,2,3, 2, | 1-0, ||

皇祖の祭

下十四

皇祖の祭

(一)

仰け大君の御祖の祭

鳥も聲立て、林と野邊よ

仕へ給ふらん雲井の空を
 今ぞ春風のめぐみを謡ふ

(二)

二千五百年御祖の守

花の年毎に散るども咲らん

盡きぬ日の本の類いづこ
 國の春風の天地と共に

皇祖の祭

下十五

(三) (三) (二)

宮の山

鳥も謡ふ宮の山
 風も遊ぶ岡の森
 夕日落ちてなごり惜し
 風よ鳥よ明日もこん

花の笑顔つねに見て
 松の風もいさぎよし

今日も遊ぶ岡の森
 明日も行かん其次も

水の流下よ見て
 鳥の聲もおもろ

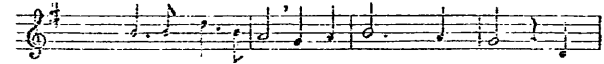
いつも遊ぶ宮の山
 今日も行かん明日も又



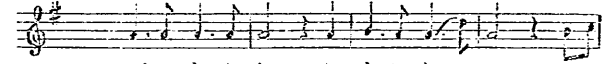
宮の山



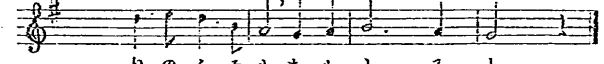
(一) い つ も あ そ ぶ と や の や ま け
 (二) イ ツ モ ア ソ ブ ツ カ ノ モ リ ア
 (三) と り も う た よ と や の や ま か



ふ も ユ カ あ ナ も ま た と
 ス モ エ カ ソ ノ ツ ギ モ リ ハ
 ゼ も あ え を う の り ヨ



ブ の な ぶ れ し た に と て と
 ナ ノ エ ガ ホ ツ ネ ニ ミ テ マ
 ふ ひ お ち て な ご り を し か



り の こ ゑ も お も し ろ し
 ツ ノ カ ゼ モ イ サ ギ ヨ レ
 ゼ よ と り よ あ ナ も こ ん

5, | 1, 1, 2, 2, | 3-0, 3, | 3, 3, 5, 3, | 2-0, |
 12, | 3, 3, 5, 3, | 2-1, 2, | 3 - . 2, | 1-0, |
 5, | 2, 2, 2, 2, | 2-0, 2, | 3, 2, 2, 5, | 2-0, |
 34, | 5, 6, 5, 3, | 2-1, 2, | 3 - . 2, | 1-0, ||

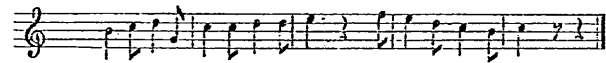
謡へよ波



(一) けう か と じ い う に う た へ よー な
 (二) フドリ フ ビ イ う に フ ド レ ヨー ナ
 (三) あ そ び て じ い う に あ そ べ よー な



み し せ ん の と ゑ に て し せ ん の こ
 ミ ア コ ブ ミ シ ヲ そ へ テ ア シ ブ ミ ソ
 み と も だ ち さ そ ひ て と も だ ち さ



え に て い の こ す な み い そ う つ な み
 ロ へ テ ウ へ ユ ク ナ ミ シ タ ユ ク ナ ミ
 そ ひ て う づ ま く な み と び ち る な み

5, | 5, 3, 3, i, | i, 5, 5, 3, | 2, 2, 2, 2, | i, 0, |
 3, | 2, i, 7, 6, | 7, i, 2, 3, | 2, i, 7, 6, | 7, i, 2, |
 5, | i, i, 2, 2, | 3, 0, 4, | 3, 2, i, 7, | 1, 0, 0, ||

謡へよ波

下十八

謡へよ波

(三)

唱歌

唱歌を自由トイリに謡へよ波なみ

自然しぜんの聲こゑよて自然しぜんの聲こゑよて

岩越いわこす波磯なみうつ波なみ

(三)

踊

踊を自由トイリに踊れよ波なみ

足踏あしぶみをろへて足踏あしぶみをろへて

上うへの波なみ下したの波なみ

(三)

遊

遊を自由トイリに遊べよ波なみ

友ともぶちさそひて友ともぶちさそひて

渦うずまく波なみ飛び散ちる波なみ

謡へよ波

下十九

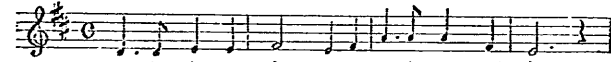
1, 1, 2, 2, | 3- 2, 3, 5, 5, 3, | 2 - . 0, | 3, 3, 5, 5, | 2- 3, 2, |
 1, 1, 2, 7, | 1 - . 0, | 2, 2, 2, 2, | 3, 2, 1, 2- | 5, 3, 3, 2, 1, 3, | 2 - . 0, |
 3, 3, 5, 5, | 2, 3, 1 - | 2, 1, 2, 3, 2, | 1 - . 0, | 5, 5, 5, 5, | 3, 2, 1, 3 - |
 5, 5, 6, 6, | 5 - . 0, | 3, 2, 1, 5, 6, 5, | 5, 3, 3, 2, 1 - | 2, 1, 2, 3, 2, | 1 - . 0, ||



煙シロリはさびー里とつつきき
 三年ミトヒの貢つぎとくあるせ
 その生業ウツクをはお救すけへ
 漏もる雨露アメはいつなるぞ

煙シロリは満みちぬ空そらまでも
 民タタの竈かまどをあふめびい身み一つよ
 なほ吹ふきめぐれ春はるの風かぜ
 生業ウツクうすき民タタの子こが
 夜よるの袂たもとやりのならん

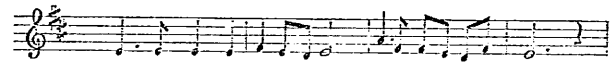
高津の宮



(一) けむりハさびしさとつづき
 (二) ケムリハミチヌソラマデモ
 (三) たかつのみやのいやたる



こがたみくさといらにせん
 ワガヨロコヒハミヒトツ
 めぐみのうげいたみぐみに



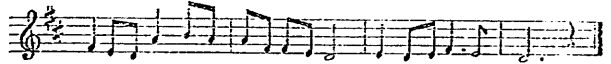
みとせのみつぎとくゆるせ
 ターミノカマトラアタターメ
 さにそのうみのいとふかき



とのなりはひとそやすくへ
 ナホフキメグレハルノカゼ
 なさけのなみのたみがみに



こがみやよりもたみのみに
 ナリハヒウスーキクミノコ
 このせいたいとにんとくの



もるあめつゆらいらねるぞ
 ヨルノターモトーヤイカーナラ
 みるどとーたーたへまうすなり

高津の宮

運動會

運動會

(一) う た ヘ あ えー ベ も な
 (二) テ フ モ ト リー モ ワ レ
 (三) と なリ ノ か げー に ひ ら
 (四) も モ さ く の ベ に て ふ と と も
 ら ト く の ト モ た ニ ア ソ ベ ウ タ
 め ク の ト は た ハ キ ミ マ
 口 ク は ウ タ ハ キ ミ マ
 に ハ ろ ル あ ウ ム ユ そ タ ウ ウ ベ ヘ シ レ ヤー の ノ あ ア コ そー た エー ベー ゴ
 (五) か ら だ な らー ナル は ヒ
 (六) ワ ら ず た ち グー ル ハ
 (七) ウ カ セ ヘ モ あ ハ ナー モ ハは
 (八) カ セ ヘ モ あ ハ ナー モ ハは
 め そ ハ キ ト け ケ の ト ふ フ ベ モ ゑ ゴ に ニ う た へ う た
 メ ナ ラ ト ト ト モ ニ ア あ ソ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ
 へ ば ん ざ い ー う た へ
 ヲ ヲ ハ カ チ ド キ ア タ ヲ ヲ
 へ へ ハ チ ド キ ア タ ヲ ヲ

下廿三

高津の宮

(三)

高津の宮のいや高
 難波の海のいと深き
 この聖代を仁徳の
 帝と稱へ申すなり

下廿二

運動會

1, 1, | 2, 0, | 3, 53, | 2 - | 5, 5, | 5, 4, | 3, 2, | 1, 0, |
 1, 1, | 2, 0, | 2, 2, | 3 - | 3, 3, | 5, 43, | 2, 32, | 1, 0, ||

(一)

謡へ遊べ花咲く野邊
 蝶と共に遊べや遊べ

(二)

蝶も鳥も我等と共に
 遊べ謡へうへやあそべ

(三)

花の陰よりひらめく旗
 國を守る勇士の旗ぞ

(四)

森の空よりいろく歌へ
 君を守る勇士の聲ぞ

(五)

のらぶのらぶ 馴らす始へ今日ぞ
 謡へく萬歳うへへ

(六)

業を遂ぐる始へ今日ぞ
 あげよく勝鬨あげよ

(七)

謡へ遊べはてなき野邊よ
 あそべうへへ春風ともよ

(八)

風も花も我等と共に
 あそべうへへくへや遊べ

今日ら休

(一) け ん ら や す み ち ち じ に
 (二) け フ カ ラ ヤ ス ミ ツ キ ヤ マ
 (三) け ふ う ら や す み さ ら へ の

つ き て ら リ ま も ゆ う 一 ン
 ツ き テ ら マ ツ も モ ウ エ ン
 ひ ま に ふ う せ ん あ げ ン

そ こ ー ー こ も に を ば う へ と は ン
 コ イ ケ ー ー ホ リ テ ウ フ フ モ カ ハ ン
 し ふ ー ー の あ と で と ン ぼ も つ ら ン

今日から休

下廿六

3, 2, 4, 3, | 6, 6, 5 - |
 1, 6, 7¹, 2¹, | 7, 6, 5 - |
 2, 4, 3, 5, | 4, 5⁶, 5 - |
 1, 7¹, 2¹, 7⁶, | 5, 4, 3 - |
 5, 1, 3, 1, | 7, 2, 1 - ||

(一) 今日ら休
 父御よつきて狩も行こうん
 母御と共よ叔母上訪はん

(二) 今日ら休
 葉山つきて松をも植えん
 小池を掘りて魚をも飼はん

(三) 今日ら休
 ことらのひまよ風船上げん
 習字のあとで鯖鈴も釣らん

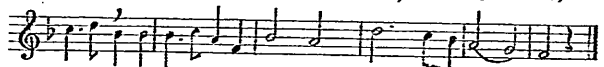
今日から休

下廿七

源 平



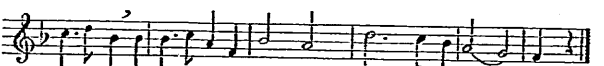
(一) へいけはなまにふねをうかべ ひ
 (二) ケンビハミギハニツマフヒカへ シ
 (三) えころをひきあふたりのぶし み



らめくあかたさくら かもーもーか
 ナビクジラハタアラシノユーキーカ
 ほのやらげきよはうぶ へいーかーに



(四) やしまのただみひしるかきみハ こ
 (五) ドコロハリヌキノミキノコホリ チ



ろしもぶんちのねんねん にーねーつ
 リニテマナビレコセキ ハーコーコーヨ

5, | 1, 3, 5, 3, | 2, 4, 3, 1, | 7, 6, 5, #4, | 5 - 0, :|| 5, |
 5, 6, 4, 4, | 4, 5, 3, 1, | 4 - 3 - | 6 - .54, | 3 - 2 - | 1 - 0, ||

源 平

下廿八

五 四 三 三 二

源 平

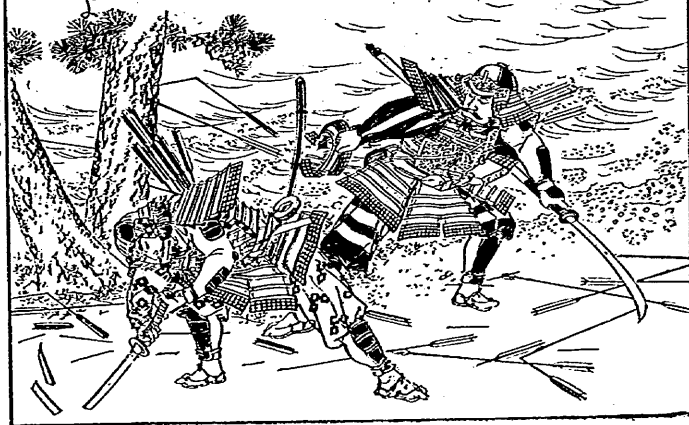
平家の波間は舟を浮べ
 ひらめく赤旗櫻の桃の

源氏の汀は馬をひらへ
 となびく白旗嵐の雪の

鉦を引きた合ふ二人の武士
 三保谷景清勝負はいさよ

屋敷のしるしは知らる君の
 頃も文治の元年二月

處の讃岐の三木の郡
 地理よて學び古跡のこぼ



源 平

下廿九

夕 霜

(一)ゆ ふ し も さ む き た り ま の む し き
 (二)ユ フ ツ キ サ ム キ タ カ ベ ノ モ リ カ
 (三)ゆ ふ か せ さ む き な み ま の ふ ね くれ

く り は た き ぎ を お ひ て ゴー ゆー く
 レ ス ハ オ ヤー コ ツ レ テ ゴー ユー ク
 ふ し い う を と の せ て ゴー ゆー く

(四)ゆ ふ か ぎ さ む き た け の み ち の
 (五)イ マ コ ツ ス ベ テ ヤ ス ミ ノ ト キ ヲ

ら ふ ハ く は ー を か つ ぎ ゴー ゆー く
 レ テ モ オ ヤー ノ イ ヘ ニ ゴー ユー ク

夕霜

下三十

6, | ♯5, 8, 6, 7, | 1 - 7, 3, |
 2, 7, 1, 7b, | 7 - 0, 7, | 1, 2, 3, 2, | 1, 7, 6, 7, |
 3, 6, 17, 6♯5, | 6 - 0, ||

夕霜

- (一) 夕霜さむき谷間の橋
 樵の薪を負いてぞ行く
- (二) 夕月さむき岡邊の森
 鳥の親子つれてぞ行く
- (三) 夕風さむき波間の舟
 獵師の魚をのせてぞ行く
- (四) 夕影さむき畑の道
 農夫の鋤をうらぎぞ行く
- (五) 今こそすべて休の時
 我等も親の家よぞ行く

夕霜

下卅一

湊 川

湊 川

下冊二

5. 5. 1, 1, | 1 - 1, 1, | 3 - . 21, | 2 - . 0, | 5. 5, 3, 3, |
 2, 2, 1, 1, | 2 - . 32, | 1 - . 0, | 5. 5, 5, 5, | 5, 5, 5, 3, | 5 - . 31, |
 5 - . 0, | 1, 1, 1, 1, | 1 - . 0, | 3, 3, 2, 2, | 1 - . 0, || '

湊 川

①

賊徒の兵世よ満ちて
 忠義もはやこれまでぞ
 刀の折れ矢の盡きぬ
 何とせんことが君を

②

斃る身ハ惜
 慮をいつ休むべき
 滅ぶる家惜
 何とせんことが君を

③

金剛山誰かよめを
 千劍破の城誰かよめを
 七度世よ生れ來て
 賊の首打さんまで

湊 川

下冊三

(一) 君が代の新嘗祭 今日すなり
祝の聲は里もどころよ

(二) 八束穂の足穂の稲を積みおきて
御代をぞ祈る神の御前よ

(三) 五月雨は裳裾をぬらし御民らの
作りし稲は今ぞのこころよ

(四) うらなびく籠の煙はさきはひて
新嘗いはふ歌はちまはひて
民の千里よ



にひなめ

下冊五

にひなめ

にひなめ



(一) きやみ ぐよ の に ひ な ま つ り
 (二) さみ ッカ ホ ノ タ ヒ ナ ホ ノ マ ね イ つ ね
 (三) さみ ッカ ホ ノ タ ヒ ナ ホ ノ マ ね イ つ ね
 (四) さみ ッカ ホ ノ タ ヒ ナ ホ ノ マ ね イ つ ね

けふ ナを リ いは の こ は さ と も
 ッミ オオキ テ ミヨ ヲイ ル カ ノ ゴ
 みタミハヒ トクニ ナシイ ハハ ウ
 ニギニギハヒニタミヤミハチサトニ

にひなめ

下冊四

5, 5, 3, 2, | 1 - . 0, | 3, 3, 3, 2, |
 5 - 3, 3, | 2, 2, 1, 2, | 3 - . 0, | 6, 6, 1, 1, |
 2 - 1, 1, | 3 - 2, 1, | 6, 6, 1, 1, | 5 - 5, 3, |
 2 - 1, 6, | 5 - 6 - | 1 - . 0, ||

明治二十五年五月五日印刷
明治二十五年五月十一日出版

(發售帝國唱歌下卷)

定價金七錢

著者 大和田建樹

發行兼印刷人 大橋新太郎

日本橋區本石町
三丁目十六番地

印刷所 東京日本橋區宗十郎町十五番地
國文社

發行書林 博文館

東京日本橋區本石町三丁目



版權所有

學習院御用掛陸軍大佐從四位高島信茂公題辭
東京音樂學校教授從七位上眞行先生校閱
學習院音樂教官納所辨次郎君編纂

日本軍歌

全一冊和裝美本
正價金拾貳錢
郵便稅貳錢

忠君愛國の精神、勤學勵行の志氣、之を鼓舞するの道唱歌の愉快にして活潑なるに如くはなし、音樂の大家上眞行君本書に序して曰く、「我友納所君は多年學習院の音樂教授と爲りて頗る令聞高き人なり頃日軍歌一卷を著して余に校閱せしむ受けて之を見るに僅に廿餘曲の小冊子なれども其曲は歐洲軍部の偉潔なるものと邦人新作の秀拔なる者とを採りて金玉の佳章を填したるものなり之を樂器に和して一吟するに壯氣頓に勃發し忽然として身を砲烟彈雨の間に投し百戰報國一死殉君の慨氣を發せしむ余は病餘の一瘦骨にして猶且然り況や生氣を以て充たれたる活少年に於てをや乃ち知る其軍歌出で、世の大喝采を博し有爲少年の好伴侶と喚はれ四方に歡迎せらるゝとを」と少年及軍人諸君幸ひに愛讀あらんとを

K12073-11

